

平成30年度広島市立広島特別支援学校第3回学校協力者会議概要

1 日 時 平成31年2月22日（金）（10:00～11:30）

2 場 所 広島市立広島特別支援学校 校長室

3 内 容

(1) 学校長挨拶

(2) 委員長挨拶

(3) 協議

ア 学校の現状について

- ・ 平成31年度の新入生は、小学部31名、中学部44名、高等部85名が入学予定である。
- ・ 人工呼吸器を使用する児童の入学等、医療的ケアの必要な児童生徒が増加しており、障害の重度化がうかがえる。また、中学部では、比較的軽度の障害の生徒の入学が増加しており、重度・重複化、多様化していく児童生徒の実態に対し、どう対応していくかが課題である。
- ・ 増築校舎の進捗状況については、設計業者は決まったが、年々児童生徒は増加しており、増築校舎の対応では困難な状況となることが予想されることから、小・中学部と高等部に分ける二校設置案を、市教委において検討していただくようお願いをしている。
- ・ 来年度は、西校舎の全教室を使用することとなり、児童生徒数の増加に伴う学級数の増加に対応するために、本校舎では、一つの教室に二つの学級が入る状況を予測している。また、西校舎で生活する生徒の増加に伴う給食の喫食場所の問題について検討している。
- ・ 教員については、チームワークの良さが感じられ、前向きな方向で研究等に取り組んでいる様子が見えてくるが、今後益々児童生徒、教職員の増加が予想されるので、専門性を維持し、児童生徒の教育的ニーズに応えながら、指導力を高めていくことが課題となっている。
- ・ 精神面や情緒面において、不安定な児童生徒に対する対応が難しく、課題となっている。

イ 平成30年度学校経営計画最終評価について

- ・ 学校経営計画に関する保護者アンケートについては、概ね肯定的な評価であったが、記述のコメントには、不安な気持ちや要望も数多く寄せられていたので、真摯に受け止め、今後の教育活動に生かしていく。全体的な方向性をつかみ、学校課題を共有していくこととする。
- ・ 学校経営計画に関する教員アンケートについては、自ら進んで主体的な活動ができるような環境づくりに取り組んだ教員の割合が、各学部とも100%になった。また、御寄贈によるタブレット端末の増加や情報教育部による研修の効果もあり、ICTの活用状況でタブレット端末の使用が、中学部では昨年度に比べ20%以上伸び、全体でも10%程度上昇した。
- ・ 学校経営計画について、具体的方策の中に成果指標が記入されているため、来年度以降は、具体的な方策により児童生徒や教員がどう変容したのか評価指標を数値で示すようにする。
- ・ いじめのアンケート調査を実施する際、尋問形式のアンケート手法は控えるようにする。
- ・ スマートフォンの使用については、家庭と連携し、正しい活用方法の啓発を図っていく。
- ・ 消化不良にならないように研修を進め、一人一人のニーズに応えるように努めてほしい。
- ・ 愛着障害のある児童生徒の対応では、気持ちを話せるキーパーソンの存在が大切である。
- ・ 学部研修の中で、ケーススタディーを行い、合理的な配慮に基づいた対応をしてほしい。
- ・ 「クリエイティブな校長になろう」（広島県教育長平川理恵著）を是非読んでほしい。

(4) 委員長挨拶

(5) 学校長挨拶